【弁護士日記】

この世に酒、タバコ、女は無かったと思え

美和勇夫

久し振りに人間ドックに入ったところ、標準体重20%オーバー（太り過ぎ）、中性脂肪　コレステロールが多すぎるという警告あり。

肥満は「脂肪」ではなく「死亡」に繋がるもので、糖尿病、脂肪肝臓、胆石、高血圧、高脂血症、痛風、呼吸障害…果ては「ガン化」への確率の増大となる。

「どこそこの○○の料理はとびきりうまい」と案内される美食家（通）は、ほとんど短命である。一昔前と違って、今は、うまいものを食って養生をするのではなく、うまいものを食いつづけるとそれだけ早死にをすることになる時代である。

☆　☆　☆　☆　☆

うまいといって酒を飲み続ければ、肝臓には確実に脂肪がへばりついて、フランス料理のフォアグラのような「脂肪肝臓」になり、これが「肝硬変」のもととなって肝臓がやられ、ガンにも繋がる。だいたい、世に、うまいと言われる食い物には、ほとんど「コレステロール」、「中性脂肪」が含まれる。ウニ、ウナギ、トロ、レバー、卵、ステーキ、ラーメンのスープ、ポタージュ、たらこ、バターを使った料理、…など正に、諸悪の根源（悪玉）コレステロールの宝庫と言ってよい。

岐阜の潜龍（有名ステーキ屋）の女将が「うちのは最高の松坂肉でステーキの油身も体に良く吸収されてすぐ燃焼されてしまうから良いと言われます」と肉をジュージュー焼きながら説明していたが、そんな理屈はなかろう（ウマければウマイほどコレスと中性脂肪は肉のおまけについてくる）。

いかなる大金持ちのケチでも、人生の最後に遺言を書いて死ぬ時は、（あの世へ財産をもってはいけぬから）ケチではなくなるのだが、それと同じで、意地きたなく（或いはもったいない、値打ちであるといって）あれもこれも目の前にある「食い物」を全部たいらげると、結局はゼニを使って、己の命を縮めることになる。（それはタバコでも、覚醒剤でも麻薬でも同じことであろうが）

☆　☆　☆　☆　☆

「おみゃあさん、この世にウニやうまいステーキなどという食い物はもともと無かったと思やあ」と言った医者がいたが、それではこの世に「酒やイイ女がもともとおらなんだと思え」と同じことでなかなかそのような心境になれるものではない。

隣人の為、世の為、奉仕するという私も所属している奇特なロータリークラブで、それでは「隣人に対して害を与えるタバコを会のミーティング会場で率先して禁止しやあ」と言ったら、「そんな、わざわざ人の楽しみの一服をやめにするくらいなら出て来んほうがええ」という回答になったが、もともとタバコなど縁が無かったなどとは、とても思い切れるものではない（タテマエはホンネに勝てない）。刑務所にでもぶちこんでもらえれば、酒、タバコ、バクチ、女なしで体に良い麦のメシまで食わせていただけるが、なんせあそこは人間としての「自由」がない。

人類はこれまでアホだと思われた長い歴史を積み重ねてきたわけであるが、つい百年も前は「殿様」しか味わえなかった「食い物」や「自由」が手に入ったおかげで、色々な新しい贅沢な「苦難」に遭遇することとなったわけである。